

No.9

令和6年
春・夏

職人の技を受け継ぎ歴史・文化を継承する

職大だより

公益社団法人 金沢職人大学校



輪島市黒島（重要
伝統的建造物群
保存地区）の被災
した町並み

巻頭言

本年、令和6年元旦に能登地震が発生しました。亡くなられた方々へのご冥福をお祈りするとともに、被災された方々の一日も早い復旧・復興をお祈りしています。今回の地震は、能登半島のみならず金沢市やその周辺地域及び南加賀地方、あるいは富山県、新潟県にも及ぶ広い範囲に大きな被害をもたらしました。また周期一秒前後の地震波、いわゆる「キラールス」により住宅程度の規模の木造建造物等に大きな被害を及ぼしたといわれます。文化財建造物をはじめとする歴史的建物もその多くが罹災しています。

国、県、市および町の指定文化財のほか、いわゆる町家や古民家などの未指定の文化財も多く損傷しました。指定文化財としては、重要文化財である時国家住宅や旧角海家住宅など、また重要伝統的建造物群保存地区である輪島市黒島、登録有形文化財では総持寺祖院の諸施設などが含まれます。未指定文化財を含む伝統的建造物は地域の歴史や文化を担い、風景を形づくり、また地域のコミュニティ再建の核になるような象徴的存在であるものが多く、今後の能登の復興まちづくりにとって欠かせない重要な要素であるといえるでしょう。

熊本地震の例をみてもわかるとおり、復興には多くの時間と労力、そして専門家の知識と知恵が必要です。金沢職人大学校は、継続して関わるができる地域の専門家集団として、地域で必要とされる事柄をひとつひとつ担っていきたくと考えています。本校とその関係者においては、現在、様々な要請をいただいて、現地に赴いているところです。一刻も早い対応をすべきことは多々ありますが、それと同時に、長期的視点に立って、地域が自力で歩み出せるよう、しっかり寄り添っていくことが求められていると考えています。

昨年10月にはじまった本科10期生ならびに修復専攻科9期生の授業は、早くも8ヶ月を過ぎました。研修生は、講師の方々による厳しくも温かい指導によって日々たくましく成長しております。

また、伝統的建造物の保存修復に力を発揮する本校修了生の職人さんたちの名簿を載せた「金沢職人アーカイブ」がネット上に公開されました（<https://craftsman-archives.city.kanazawa.ishikawa.jp/>）。皆さま、伝統的の家屋の修理・修復はもとより、新築等の現場においても伝統技術を習得した確かな技を活用していただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。
(坂本英之)



● 本科：道具収集

職人さんにとっては、命よりも大切なものといわれた道具は、どれ一つをとっても愛情の深さを感じられ、使い勝手や手入れにもこだわりが伝わってきます。古くからの技の足跡を知るためにも貴重な資料です。

◀ 道具を収納する教材倉庫。研修生が海鼠壁などで建造しました。

板金科



「底打ち」「ぶったて」
「への字」を収蔵しました

- ①底打ち
- ②ぶったて
- ③への字 (小)
- ④への字 (大)



板金科では、工具が不足しています。(本来なら自分用の工具を持ってほしいです。)そこで、使わなくなった人や廃業した人達の道具を譲ってもらい再活用して補充しています。

長い間使用していなかったため、当金(あてがね)の表面部分が赤錆で痛みがひどいので、治具(じぐ)の錆をとり、サンドペーパーで当金の表面を鏡面に仕上げ、作品の面に傷がつかないように仕上げます。他の錆びた部分も全体に錆をとり、黒塗装しました。

これらの治具は鋼の棒を真っ赤に焼いて、専用工具で手仕事で曲げて叩いて作られた、すばらしい治具です。今回の治具は建水(けんすい)を作るときに必要な工具です。銅板を焼きなましすると、びっくりする程やわらかくなり、それを金床や、これらの治具の上にのせ、金槌で叩くと堅くなり、しまります。この作業を鍛金といいます。この作業を繰り返して建水をつくります。

「先人の作ったものを真似るだけでなく、自分で考え、試行錯誤して、ものづくりに挑戦してほしい。失敗してもいい、そこから学び成長してほしい」と、後輩達に力強いメッセージをいただきました。

(板金科 9期講師 久野誠さんに取材)

表具科



名物裂(きれ)を収蔵しました

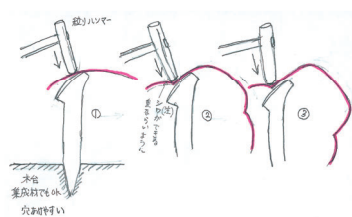


▲ いただいた大量の端裂(はざれ)を、桐箆笥に整理、保管しました。この桐箆笥も、もともと教材倉庫に保管されていたものです。

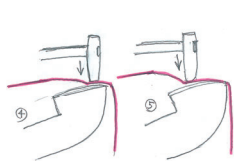
もう使われなくなった大量の裂(きれ)を桐箆笥 2 竿分収蔵しました。京都・西陣でも、もはや作られていない貴重な名物裂や、なかなか手に入らない珍しい裂も含まれています。掛軸や屏風周りになど使用します。

「職人たちは、こうして自分の財産を次の世代に手渡していきます。私も先代から裂を譲り受けて仕事をしてきました。職大でも若い方たちには先達の想いを受け継ぎ、これらの裂を活用して学んでいってほしいです。」と、使われなくなった裂の存在を職大にご紹介していただき、収蔵にいたしました。(表具科 9期講師 永嶋明さんに取材)

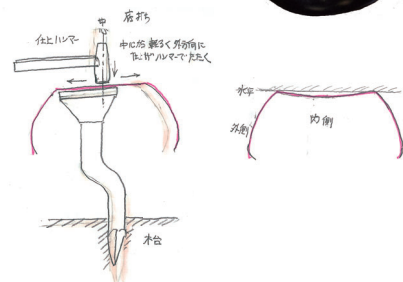
茶道具・建水の叩きだし



▲ 木台に②ぶったてを刺して、鉢底に丸みをつける。



▲ ③④への字で、角度に合わせて、湾曲を作り込む。



▲ 銅板を鉢型に打ち出したら、①底打ちで鉢の底上げをする。



● 子どもマイスタースクール

11期修了作品展を開催しました



令和6年3月12日～22日
金沢市役所第2庁舎ロビー

▲ 11期生（令和4年6月～令和6年3月）が2年間に製作した力作が勢揃い！

▲ ミニ衝立の製作はほぼ1年がかりです。衝立に貼る金沢唐紙は、自分たちでデザインして、手漉きました。

11期修了式を開催しました



令和6年3月23日（土）
金沢職人大学校第2実習棟にて

▲ 修了証書の和紙は自分たちで手漉きして作りました。証書をいれる木の額縁もスクールで手作りしました。

▲ 指導してくれた職人さんたちから、お祝いの言葉をいただきました。

● 職人さんのための教養講座



職人さんのための教養講座 修了式を開催しました



◀ お茶教室18期生修了式
令和6年3月10日（日）
長町研修塾匠心亭にて修了記念のお茶会を披露。その後、坂本学校長から修了証書が手渡されました。

▶ 謡曲教室24期生修了式
令和6年3月14日（木）
石川県立能楽堂にて修了記念の発表会で謡を披露。その後、坂本学校長から修了証書が手渡されました。

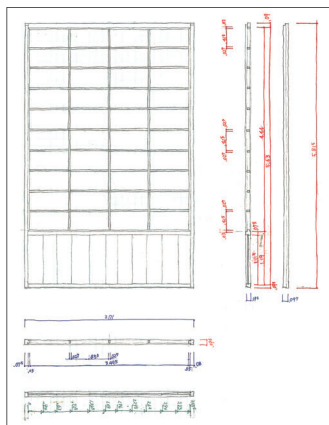


● 修復専攻科：授業の様子

2024年4月から片町2丁目にある金沢市指定保存建造物「旧佐野家住宅」で、修復調査の基本となる基礎的な調査技術の修得に取り組んでいます。

この建物は1916年（大正5）に建てられた佐野久太郎の住宅で、大地主の嗜好に合わせて造られた近代和風建築です。近代和風建築とは、明治以降に伝統的技法および欧米の技法を用いてつくられた住宅のことです。

実習は、この建物の二階にある座敷の障子を観察することから始まります。



▲ 実習で観察する障子
二階の一之間に建て込まれた障子で簡素な障子に見えるが、細部にまで技巧を凝らしたづくり。良質の材料を吟味し、丁寧に加工を施し、すぐれた技量で組み立てられている。

▲ 野帳（フィールドノート）
障子を観察し、プロポーションよく記録用紙にえがき写す。メジャーを使って寸法を測り、測定した実測値を記入して記録を作成する。観察・描写・測定・記録の一連のプロセスを通して、障子そのものから情報を読み解く調査技術を身に付ける。



▲ 修了生の建具職人による技術解説
模型を使いながら障子の技術を解説する修復専攻科修了生の建具職人。障子の技術を見て・聞いて・確かめることで障子の見方が変わり、今まで気づかなかった知見が得られるようになる。教える側の修了生にとっても修得した調査技術の研鑽につながる。



◀ 1996 年（平成 8 年）
金沢職人大学校
創立祝いの手ぬぐいに
描かれた 9 科

畳の上に座布団が 3 枚しいてあり、その座布団の絵柄に職人の道具や仕事にまつわるデザインが描かれています。

左官科
鏝（こて）▶



畳科

◀ 畳包丁（たたみぼうちょう）



造園科
木鋏（きばさみ）▶



石工科

◀ 石のデザイン



板金科
掴み（つかみ）▶



建具科

◀ 三ツ目錐（みつめきり）
鼠歯錐（ねずみばきり）



全科共通
差し金（さしがね）▼



大工科

◀ 墨壺（すみつぼ）



建具科

◀ 底鉋（そこがんな）



表具科
刷毛（はけ）▶



瓦科

◀ 軒瓦のデザイン



▲ 京都・龍安寺つくばい

吾唯知足「われ、ただ、足るを知る」
知足のものは貧しいといえども富めり、
不知足のものは富めりといえども貧し



▲ 板に墨壺で線を引く様子



▲ 数珠掛け三つ巴に唐草模様

栄田たかしさんのお話

（職大創立当時の事務局事務次長・栄田満さんのご子息）

手ぬぐいのデザインのことはよく覚えていないのですが、法被は母親がうれしそうに「お父さんが作ったんや」といって、家にあったように思います。DIY が好きで、家にも大工道具がたくさんありました。美術（造形科）の出身なので、家でもイラストはよく描いていました。歴史が好きな父だったので、よく古い資料を調べながら、一人もくもくとデザインしていました。家族には全然相談はなかったです。厳しい父でしたが、退職後は夫婦でよく海外旅行に出かけていました。

【編集後記】

子どもマイスターズスクール 12 期生の募集を市が作成する子ども向け教室の応募パンフに相乗り掲載し、また、QR コードによる募集に変えたところ、多くの応募があり大変驚きました。前回は受講生確保に苦労しましたが、効果的な PR やスマホ等による手軽な申込など時代に沿った募集が大切であると今更ながら思い知らされました。今後も、課題である金沢職人大学校の認知度向上を目指し、より一層の PR に努めていきたいと思います。（H.T）

【発行・連絡問合わせ先】

公益社団法人 金沢職人大学校

住所：石川県金沢市大和町 1 番 1 号

* 金沢市民芸術村の一角にあります。

電話：076-265-8311

ファックス：076-225-8314

Web サイト：https://www.k-syokudai.jp/

事務局：平日 9:00 - 17:00/ 土日・祝休み

